



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 横地常広
 編集責任者 深澤恵治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P3 全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第6回

P4 HUG研修会を開催して（令和7年度中四国支部研修会「臨床検査総合部門」）

P5 臨地実習 実習生受入れ啓発ポスターが完成！

全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第6回

大阪府

今回は、あべのハルカスにて「全国検査と健康展」を開催いたしました。実際の血液像標本使って顕微鏡を覗いてもらい、ミクロの世界について学ぶ体験を提供したり、疑似尿を使った尿検査体験では試験紙を浸けたあと、尿カップの淵で余分な水滴を拭き取るコツや試験紙の変色の様子を観察したり、定性簡易検査キットを用いた疑似検体検査体験では滴下した抽出液が一定方向に浸透して行き、反応ラインが変色する様子を経験して頂き「うわぁ〜！」と歓声が上ったりしました。頸動脈エコーの実演では、リアルタイムで画像解説を行い、この検査で何がわかるのかとか、動脈硬化が進むとこんなふうになるなどを詳しく説明し、予防するためには生活習慣の改善と定期的な健康診断の必要性を説明しました。また、臨床検査に関するクイズを通じて、参加者の皆さまに普段は知らない検査の知識を深めていただきました。なりきり検査技師コーナーでは白衣を着て記念撮影される方が沢山おられ皆さん笑顔でベストショットを撮っていました。地元阿倍野区のゆるキャラ「あべのん」にも来て頂き、会場の子供たちは大喜びでした。健康維持や認知症予防に効果があるとされるモルック体験も行き、汗を流しながら検査だけでなく健康への関心を高めるきっかけとなったと思います。

本イベントは、近鉄百貨店様のご協力もあり、延べ2319名の方にご参加いただき、大変盛況となりました。10時の開店直後から健康と検査のブースには多くの方々が集まり、賑やかなスタートを切ることができました。

この全国検査と健康展を通じて臨床検査とそれを担う臨床検査技師のことを少しでも知って頂くことが出来たと思われます。また、参加して頂いた小中高の生徒さんが将来、「検査と健康展に参加して臨床検査技師を目指しました！」となれば良いなと思っています。今後も、より多くの方に健康や検査について関心を持っていただけるよう努めて行きたいと思っています。

（公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 渉外部 喜舎場 智之）



広島県

10月25日（土）広島市中区紙屋町シャレオ中央広場にて全国「検査と健康展」を開催しました。

本事業は臨床検査に関する正しい知識の普及・啓発、国民の健康づくりや生活習慣病の早期発見への意識高揚を図ること、また、若い世代を中心に広く国民に臨床検査および臨床検査技師のことを知っていただくことを主たる目的とし、活動を行いました。広島県臨床検査技師会から43名の臨床検査技師会員が参加しました。また、近隣の臨床検査技師養成校である2大学から13名の学生、医師1名の協力がありました。実施項目は無料健康チェックとして、「骨密度検査」、「簡易貧血検査」および「専門医による健康相談」を行いました。そして、日臨技が作成した「みんな知ってる？臨床検査技師の仕事」動画を上映しながら、臨床検査模擬体験として「顕微鏡体験」、「超音波検査体験」、「血液型のしくみについて」、「寄生虫の展示」、「フォトブースでのユニフォーム体験」および「大学教員による進路説明」などを行いました。

来場者は400組以上であり、検査・体験待ちの列ができるほどでした。延べ検査・体験件数(健康相談を含む)は1338件でした。来場者からは、「臨床検査を体験できて嬉しかった」「楽しみながら勉強できた」「臨床検査に興味があった」「将来の夢の候補になった」「また来たい」「良いイベントである」などの感想が寄せられ、たいへん好評でした。ボランティアスタッフも日常の業務と変わらず、丁寧な対応で来場者の案内、検査の実施、検査についての説明を行い、来場者からも「スタッフの方々が明るく優しく接していただき気持ちよく検査ができた」「貴重な体験ができた」「検査技師という職業があることを初めて知った」「重要な仕事だと認識できた」など、活動を通して臨床検査技師の認知度の向上につなげることができました。フォトブースでは大人用・子供用の白衣を準備し、親子で白衣を着て楽しそうに写真を撮っている様子が印象的でした。



Instagramによって活動を知り、他県から大学ブースに進路相談に来られた学生がいました。SNSによる宣伝や近隣の学校にチラシを配布したのも集客に効果があったと考えています。

最後に、来場者に無料で2種類の検査ができたのは、快く検査機器や試薬等を提供していただいた検査機器メーカーのおかげであることを忘れてはなりません。感謝申し上げます。

(広島県臨床検査技師会 米田 登志男)

香川県①

令和7年9月15日(月曜日)11時~16時まで、フジグラン丸亀にて、健康フェスタ in フジグラン丸亀(検査と健康展)を開催しました。フジグラン丸亀での開催は4回目となり、昨年度と同じ開催場所・時間でおこなったため、スムーズに設営など準備できました。来場者は昨年度より21名多い、137名の方にお越しいただきました。

今回健康チェックとして両上腕血圧測定、酸素飽和度測定、骨密度測定に加えて、ヘモグロビン測定、AGE s 測定を行いました。超音波体験コーナーでは超音波診断装置を2台で行い、より多くの方(87名)に体験していただきました。来場者にはアンケートをおこない、アンケート結果として、来場者の年齢別では70歳代(36.8%)がもっとも多く、50歳以上は82.2%で女性は約8割でした。女性で年齢が高いほど健康に関心があると思われれます。また臨床検査技師をよく知っていたが27.4%とまだまだ認知度が低いです。今回臨床検査技師を知らなかった17.9%の方にアンケートを行い、このイベントでよくわかった36.8%、少しわかった63.2%、わからなかった0%と認知度向上に貢献できているのではないかと思います。しかし、少し知っているが54.7%と臨床検査技師は知っているが、どのような仕事をしているかはわからないように思われるので、検査と健康展を通じてアピールできたらと思います。



(香川県臨床検査技師会 篠原 由美子)

香川県②

令和7年11月1日(土曜日)香川県立保健医療大学にて全国「検査と健康展」を開催した。受付が10時~13時で開催、100名の方に来場していただいた。

検査コーナーとして、認知機能テスト、骨密度測定、両腕血圧測定、酸素飽和度測定、握力測定、AGE s 測定、ヘモグロビン測定を行った。また、体験コーナーとして顕微鏡2台でモニターを見ながら血液像・病理組織の説明を行った。ポスター展示(HIVポスターなど)、資料配布、アンケート調査も行った。スタッフ17名で各担当に分かれて検査・検査説明を行った。また香川県立保健医療大学大学の学生に骨密度検査を行ってもらった。50代の年齢層が多く、来場者の流れもイベント終了後に集中しての混雑ぶりに驚いた。認知機能テストは費用の関係で35名の限定で受けられなかった方には申し訳なかったと思います。アンケート調査結果として臨床検査技師の認知度も年々と上がっているように思われる。このようなイベントを通して臨床検査技師の認知度向上や地域の方の健康への意識の高まりに貢献できていると思った。次回も新しい企画を相談して増やしていけたらと思う。



(香川県臨床検査技師会 小原 浩司)

山梨県

12月7日(日)、甲府の新しい観光地である、小江戸甲府花小路・こうふ亀屋座にて「検査と健康展」を開催しました。午前10時から、高校生臨床検査技師体験と、一般来場者健康チェックを平行して行いました。

事前募集した、山梨県内の高校5校計10名の生徒に参加していただき、臨床検査技師の紹介DVDを鑑賞後に、研究班の検査企画を行いました。例年と同様に超音波研究班では「エコーで何が見えるかな?」と題し、水枕の中身を当てる体験、輸血検査研究班では自分の血液型を調べる体験を行いました。また、今年は人形を使用した鼻腔からの検体採取の実習を行いました。若手技師による相談コーナーも設け、年齢が比較的近いこともあり、リラックスした、和気あいあいとした雰囲気の中で進路や学習、就職などの質問に答えました。保護者を対象とした相談会では、ベテラン技師と若手技師でペアを組み、臨床検査技師の資格を取得するための必要な情報、進学先、就職先など少人数形式で質問に応じました。熱心に質問する保護者の姿に、進路選択・職業選択の一助となる事が出来たと感じました。

一般来場者企画では、山梨県のゆるキャラ菱丸君が会場入口に立ち、宣伝活動を行いました。若い方からご年配の方まで、幅広い年齢層の方に来場していただき、血管年齢測定・骨密度測定を、82名の方が体験されました。会場が観光地にある施設だったため、県外からの観光客の方が多かったのですが、事後アンケートではほとんどの方が満足され、臨床検査技師に対する理解が深まったとの回答が得られました。来年も「検査と健康展」に来たいという、嬉しいお声も多くいただきました。来場された方に臨床検査に関する正しい知識を提供でき、病気予防と健康への意識を高めていただけた場になったと思います。



(山梨県臨床検査技師会 松山 亜紀子)

新潟県

2025年12月7日(日)、イオンモール新潟亀田インターにて、全国「検査と健康展」2025 in NIIGATA を開催しました。会場は、毎年恒例となっているクリスマスツリーのそばで、多くの方に気軽に立ち寄っていただける雰囲気の中で実施しました。当日はあいにくの天候で寒い一日となりましたが、多くの来場者にご参加いただき、用意した300部のパンフレットも早い時間に配布終了となりました。会場では、乳がん模型に触れて「しこり」を体感した後、その正体であるがん細胞を顕微鏡で観察する流れを作り、検査による早期発見の大切さを分かりやすくお伝えしました。あわせて、顕微鏡体験や鼻咽頭拭い液の検体採取体験も行い、臨床検査技師の仕事を身近に感じていただきました。本イベントを通して、検査が私たちの健康を支えていることや、臨床検査技師の役割を多くの方に知っていただく機会となりました。

く



(新潟県臨床検査技師会 田端 篤)

岐阜県

今年度の岐阜県臨床検査技師会の検査と健康展は、イオンモール大垣で行いました。健康意識が高い住民の方が多くイオンモール担当者から伺っており、呼び込みをすると来場して下さる方が多くみられました。エコー検査を体験された方は病院で検査することがあるが、実際に手で触れてみて体験できたことを喜んでいただけた姿が見られました。また、人体模型の臓器パズルには多くのお子さんが興味を持ち体のことを学べるきっかけになったと思います。そして化学発光の簡易実験キットを使用し病院で行われる生化学検査の仕組みも理解いただけました。病院で受ける検査が実際に目の前で説明できることで検査の仕組みや重要性に触れていただくことができ検査と健康に対する啓発活動ができたと感じました。健康相談では来場された方が医師から時間をかけて健康についての相談ができる場になっていました。今回も、県内の技師養成校の学生さんと先生に参加いただきカードゲームを使いながらお子さんに学校の説明をしていたり、技師会の各ブースにも入ってもらい技師とともに検査と健康展の運営をしたりすることができたことは、臨床検査技師になるための学ぶことことから実際の仕事までを通して体験をする場の提供をすることができたと思います。



(岐阜県臨床検査技師会 澤野 晴夫)

「防災のつながりを深めよう～一緒にゲームをしませんか?～」

HUG 研修会を開催して（3）

1. はじめに

本報告書は、1月11日に行われた令和7年度中四国支部研修会「臨床検査総合部門」にて実施された避難所運営ゲーム（以下、HUG）研修会に参加した内容についてまとめたものである。私は今回が初めてのHUG参加であり、実務委員として運営側に携わるとともに、当日はファシリテーターを務めた。

2. 研修会の概要

本研修会は、災害発生時における避難所運営を疑似体験し、参加者が主体的に課題解決を図ることを目的として開催された。HUGを用いることで、避難者の受け入れ、物資の配分、さまざまなトラブルへの対応など、現実には起こり得る課題を具体的に考える構成となっていた。当日は雪による悪天候に見舞われ、数名の参加者がやむを得ず欠席する状況となったが、参加可能なメンバーで予定通り研修を実施した。

3. 当日の運営と役割

私は実務委員として、企画や進行補助および全体の調整を担い、ファシリテーターとして各グループの議論が円滑に進むよう支援した。初めての参加であったため不安もあったが、次々とカードを読み上げることに必死になりながら、参加者が積極的に意見を出し合える雰囲気づくりを意識した。

また、悪天候を考慮し、帰宅時間への配慮から「途中で帰ってもよい」旨を事前に参加者へ伝えていた。しかし、結果として誰一人途中退席することなく、全員が最後まで熱心に研修へ参加したことは、本研修会への関心の高さと内容の充実度を示すものだと感じた。

4. 参加者の反応

研修会終了後、参加者からは「とても良い研修会だった」「実際の避難所運営を具体的に考える良い機会になった」などの前向きな感想が多く寄せられた。特に、実践的な内容やグループでの議論を通じて、防災意識が高まったとの声が印象的であった。

5. まとめ

今回のHUG研修会は、悪天候という厳しい条件下ではあったものの、参加者全員が最後まで真剣に取り組み、有意義な研修となった。私自身も、ファシリテーターとしての役割を通じて多くの学びを得ることができた。今後は本研修で得た経験を、実際の防災活動や次回以降の研修運営に活かしていきたい。



（鳥取県臨床検査技師会 石杉 千春）

臨地実習 実習生受入れ啓発ポスターが完成！

臨床検査技師を目指す学生の臨地実習の必要性に関する理解および協力の促進を目的として、実習生受入れ啓発ポスターを作成いたしました。

完成したポスターは臨地実習指導者が在籍される施設へ、10枚程度を日本臨床検査学教育協議会様より、新年度に間に合うよう本年3月までに送付予定です。

なおポスターは、日臨技HPよりダウンロードも可能となっております。

URL : <https://www.jamt.or.jp/data/asset/docs/159bdbc9e2866e2964238621ab5db8d595f7c00.pdf>

臨床検査技師を目指す学生の
臨地実習にご協力ください。

一部の検査を実習生が行うことがあります。

臨地実習での心得

- 検査前に患者さんに対して十分な説明を行い、ご協力の同意を得た上で実施します。
- 指導者の臨床検査技師が常に見守り安全に努めます。
- 知り得た患者さんの情報を漏らすようなことはありません。

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
JAMT 一般社団法人 日本臨床検査技師協会
厚生労働省

監修 公財社団法人 日本医歯薬 一般社団法人 日本医歯薬 公財社団法人 全日本医歯薬協会 一般社団法人 日本臨床検査技師協会

(編集後記)

タスク・シフト/シェアに関する講習会の受講は終わっていますか？

2026年度診療報酬改定で「看護・多職種協働加算」が新設される方向となり、急性期病棟で臨床検査技師が病棟業務に関わる可能性が高まっているという流れは現場にとって大きな変化ではないでしょうか。病棟配置が進むと、講習会受講の有無により“できる人”と“できない人”で業務の幅が大きく変わることも考えられます。次年度から講習会は支部開催になる見込みですが、まだ、未受講の方は、是非講習会受講をご検討いただきたいと思います。(花牟禮)